

日本教育新聞

(認可)

国際理解教育

日本人学校など海外教育施設で指導経験を持つ教員などで構成し、国際理解教育などの教材開発を行っている NPO 全国海外子女教育国際理解教育研究協議会(生野康一会長)の全国大会が 1 日から 3 日間、千葉県柏市内で開かれた。「世界と子どもをひらき、つなぎ、つむぐ教育をめざして」をテーマに、教員ら延べ 350 人が参加。国際理解教育などの実践報告や、海外の経験を生かした授業づくりや学校経営などをテーマにした分科会があり、海外子女教育や国際理解教育などについて理解を深めた。

全国海外子女教育国際理解教育研究協議会の大会から



▲.....
平和学習の事例を発表する寺島教諭。台湾の中学生とティベアを交換して交流を図った

同校の生徒は広島での修学旅行で被爆体験者から話を聞き、「原爆の恐

告した。

日本 UNHCR 協会が仲立ち

ブータン難民の子どもと交流

茨城県つくば市立谷田部東中学校の寺島清一教諭は、平成 17 年度 12 月から「平和・国際理解」をテーマに行った「総合的な学習」の取り組みを報告した。

寺島清一・茨城県つくば市立谷田部東中教諭

な取り組みを行った。例えば、国連難民高等弁務官事務所の公式支援窓口となっている NPO 日本 UNHCR 協会(赤野間征盛理事長)と連携して、「日本は平和の国か」

をテーマにした討論形式のワークショップも開催した。

また、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館の協力を得て、テレビ電話で長崎の原爆被害者と交流するなど、ICT を活用した取り組みを紹介した。

寺島教諭は、平和活動にかかわる人との直接の交流を通して、「平和への理解が高まった」と評価。国際理解教育の推進に当たっては、「外部機関との交流を深め、ICT を活用することが大事」とその有効性を訴えた。

し、ネパールにあるブータン難民キャンプの子どもたちと平和をテーマにした絵を交換。

JICA の職員を招いた。